

令和7年度 長野県南信工科短期大学校 事業計画・評価表

目標	大項目 (VISION)	事業計画		実施体制			具体的取組		実 績	分 析	外部評価委員会評価						委員コメント	令和8年度概観（取組） （注）赤字は新規の取組	
		小項目（取組）	評価項目	進捗管理者	実施責任者	実施担当者	本年度（令和7年度）の主な取組 （注）赤字は新規の取組												
地域中核人材 のづくりの スペシャリスト の育成	教育	社会に期待される人材教育	・ 予定した授業の実施 ・ 専門的知識の修得状況 ・ 実践力の向上	校長	学科長	教員	○地域企業や大学の課題をテーマとした卒業研究の実施。 ○VR技術や生成AI、産業用ロボットに関する授業の検討。 ○導入している協働ロボットを使用した実習を実施。 ○地域共同開発の「アスバラガス収穫機」に関する卒業研究を実施。 ○信州大学農学部との共同研究「バクテリア培養装置の開発」の卒業研究を実施。 ○地域共同開発の「アスバラガス収穫機」に関する卒業研究を実施。 ○多摩川バーツマニュファクチャリング株式会社との共同研究「異形工具を用いた5軸制御加工のためのC-Space」に基づいた工具経路の量産加工性評価」の卒業研究を実施。	○生成AIを活用した未来のサービスについて発表資料を作成する授業を実施。 ○協働システム学科2年生に協働ロボットの特別教育を実施。 ○信州大学農学部との共同研究「バクテリア培養装置の開発」の卒業研究を実施。 ○校内だけでなく、企業や他大学との共同研究を積極的に進めており、教育の成果も出つつある。	○生成AIについては、後期の授業で実施し生成AIの使い方、注意点、可能性及び限界について学んだ。 ○協働ロボット実習は将来的に重要課題であり、企業ニーズも最近急速に高まっているため、さらに充実する必要がある。 ○校内だけでなく、企業や他大学との共同研究を積極的に進めており、教育の成果も出つつある。	a	b	a	a	a	a	○計画を上回る実績を挙げており、評価できる。 ○人材教育の中で卒業研究の果たす役割は極めて大きい。卒業研究テーマとして教員による自主研究と企業との共同研究がベースになると思われるが、自主研究を行うためには研究費の継続的な確保が必要。学校側からの研究費配分に加え、南信工科短大振興会からの支援があることを確認し、機転に運ばれていると判断した。 ○計画に沿って実施がされていることと評価できる。 ○評価項目の1つになっている「実践力の向上」についての分析が不明である。何を尺度としていくか今後検討されたい。例えば、企業からの聞き取りや意見交換等のデータを活用した分析があれば判断できると考える。 ○生成AIに関しては、急速に発達を続けている分野であり、毎年毎年対応の進化が間われる大切な項目だと感じる。 ○社会的関心の高まり、企業ニーズに呼応した教育の実施を望む。 ○全体的に計画通り事業が遂行されている。 ○地域企業、産業に密着した共同研究を積極的に取り入れ、卒研などの学生の教育にも反映しているのは、当校の本実あるべき姿を追求している。 ○社会学や学生向け研修なども社会に期待される人材教育の一環として評価されると思う。 ○引き続き、生成AI、協働ロボットなどこれからの時代に求められる専門知識の修得に力を入れていただきたい。	○3Dカメラ及びAI等の周辺機器の活用並びにNC工作機械との連携など、協働ロボットの実習の充実化を検討する。 ○学生の授業の受講機会を増やすため、選択科目（線形代数学・工業数学・力学）を全学生対象のオンデマンド授業とする。 ○卒業研究の一環として企業や他大学との研究を積極的に推進しており、今後は教育及び研究成果を出すように努力する。 ○卒業研究の一環として、地域企業と「水位センサ」の開発及び「画像検査システム」についての共同開発を継続する。 ○卒業研究の一環として、信州大学農学部と培養装置の開発についての共同研究を継続する。 ○卒業研究の一環として、看護大学と重症心身障がいのある子ども向け音楽支援システムの開発についての共同開発を継続する。		
		学校生活の充実	・ 予定した取組の実施状況 ・ 学生満足度	校長			○日本語表現授業に、就職に必要なスキル向上のための内容を取り入れるよう提案。 ○編入学を希望する学生向けの選択科目をオンデマンド授業とし、全学生が受講できるようにした。	○日本語表現の授業に「履歴書の書き方」を取り入れた。 ○編入学を希望する学生向けの選択科目を基礎学力の向上を目的とするものと推測するが、全学生を対象に提供されたことは大変良い取り組みである。 ○授業の内容を工夫したこと、オンデマンド授業を実施したことは、学校生活における学習の保障に大きく貢献していると考えられる。 ○学生アンケートにもあるように、学校生活が楽しく、教職員の関わりがとても良いとの意見がある。このことから安心した教育が実現できていると評価できる。 ○生徒の学習意欲を向上させる、時代に合った対応であり素晴らしい。 ○就職、進学に向けた取組対応を望む。 ○予定した事業計画を実施できた。ただ就職に必要なスキル向上には様々なあるが、社会学やセミナーなども実施しているのも、もう少し実績として評価して良いのではないかと。 ○学校生活の充実としては外から見る以上に学生の満足度は高いと思うので、良いところは良い、足りないところは足りないとした学生目線での分析と今後の学校の魅力として明確にして欲しい。 ○就職希望者全員の内定という成果が維持できるよう、授業内容の改善・充実を進めていただきたい。	自己評価：a	a	b	a	a	a	a	○履歴書やエントリーシートは今や生成AIの活用が当たり前前の時代となっており、これらのツールの使いこなしもレクチャーされらるべきだろうかと。 ○卒業後、大学に編入学を希望する学生向けの選択科目は基礎学力の向上を目的とするものと推測するが、全学生を対象に提供されたことは大変良い取り組みである。 ○授業の内容を工夫したこと、オンデマンド授業を実施したことは、学校生活における学習の保障に大きく貢献していると考えられる。 ○学生アンケートにもあるように、学校生活が楽しく、教職員の関わりがとても良いとの意見がある。このことから安心した教育が実現できていると評価できる。 ○生徒の学習意欲を向上させる、時代に合った対応であり素晴らしい。 ○就職、進学に向けた取組対応を望む。 ○予定した事業計画を実施できた。ただ就職に必要なスキル向上には様々なあるが、社会学やセミナーなども実施しているのも、もう少し実績として評価して良いのではないかと。 ○学校生活の充実としては外から見る以上に学生の満足度は高いと思うので、良いところは良い、足りないところは足りないとした学生目線での分析と今後の学校の魅力として明確にして欲しい。 ○就職希望者全員の内定という成果が維持できるよう、授業内容の改善・充実を進めていただきたい。	○授業内容について、学生アンケート等を参考に担当教員と相談し、改善・充実を図る。 ○卒業後、大学に編入学を希望する学生向けの選択科目は基礎学力の向上を目的とするものと推測するが、全学生を対象に提供されたことは大変良い取り組みである。 ○授業の内容を工夫したこと、オンデマンド授業を実施したことは、学校生活における学習の保障に大きく貢献していると考えられる。 ○学生アンケートにもあるように、学校生活が楽しく、教職員の関わりがとても良いとの意見がある。このことから安心した教育が実現できていると評価できる。 ○生徒の学習意欲を向上させる、時代に合った対応であり素晴らしい。 ○就職、進学に向けた取組対応を望む。 ○予定した事業計画を実施できた。ただ就職に必要なスキル向上には様々なあるが、社会学やセミナーなども実施しているのも、もう少し実績として評価して良いのではないかと。 ○学校生活の充実としては外から見る以上に学生の満足度は高いと思うので、良いところは良い、足りないところは足りないとした学生目線での分析と今後の学校の魅力として明確にして欲しい。 ○就職希望者全員の内定という成果が維持できるよう、授業内容の改善・充実を進めていただきたい。		
							○自治体へ奨学金制度の新設に向けての協議及び検討資料の提供。 ○南箕輪村において、新たに就学助成金（給付型奨学金）が新設された。 ○県立工短の学生を対象とした県独自の奨学金（給付型）創設を県庁へ要望した。	○南箕輪村において、新たに就学助成金（給付型奨学金）が新設されたことは高く評価でき、これまでの努力に敬意を表す。 ○一方、学生生活には奨学金制度の拡充が必要であると認識されており、市町村に加え、長野県への働きかけを継続していただきたい。さらには、地元企業に就職を希望する学生への支援として振興会会員企業による給付型奨学金の新設が可能かどうか検討されたい。 ○奨学金制度の充実、若者たちの可能性を拡大する上で不可欠なものである。県へも継続して要望するなど精力的に取り組まれていることは評価できる。 ○学校生活の充実と、教育内容と奨学金に加えて、学校のハード及びソフト環境の両面で大事である。アンケート結果にある学生の要望（学校運営のコメントと同じ）について、この項目にも盛り込まれ、少しずつでも対処できることを望む。 ○県の前向きな対応に期待したい。 ○奨学金制度拡充に向けて今後も要望を出すことを望む。 ○予定した事業計画を実施し、南箕輪村において成果を上げられた。 ○努力が認められるが県も奨学金の成果は道半ばとみてb評価とする。 ○奨学金制度の働きかけについては、目的（経済的負担の軽減のみ、地元校への進学促進、地元就職者の確保等）に応じて方向性が異なるので、分析が必要ではないかと。	s	A	b	A	a	A	b	A	a	A	○南信地域（特に上伊那管内）の自治体が実施している奨学金等を再調査し、未実施の自治体に対し創設に向けて働き掛けを行う。 ○県独自の奨学金制度の創設の働き掛けを継続する。 ○奨学金制度の積極的な広報と書類作成支援を継続する。
		学生の就職支援	・ リクルート支援 学生へのアンケート、就職率	校長	就職委員長	就職委員	○相談・支援の充実。 ○南信工科短大振興会への入会の促進。	○振興会入会企業数が236社（R6年度）から238社（R7年度末）に増加。 ○校内企業研究会（合同企業説明会）に111社が参加。在校生数が少なかったため5回に分けて実施。 ○インターンシップ説明会に外部施設を利用し、より多くの企業の話を聞けるようにした結果、充実した環境下で、より深く企業を知る機会になった。 ○就職希望者全員が内定。	○学校見学会に訪れた企業等に対して、振興会の活動を積極的に紹介すること等により、会員数の増加に繋がったと思われる。	○学校見学会に訪れた企業等に対して、振興会の活動を積極的に紹介すること等により、会員数の増加に繋がったと思われる。	自己評価：a	s	a	a	a	a	a	○インターンシップや企業見学会は、引き続き取り組んでいただきたい。 ○学生の地元就職に対する振興会の果たす役割は極めて大きく、学校見学会を通して会員企業が増加していることは高く評価できる。 ○再掲になるが、振興会による給付型奨学金が新設されれば学生のモチベーションの向上にも繋がるのではないかとと思う。 ○就職率100%の実績は在学生のモチベーションにも繋がり、学生募集の際にも大きな武器になるので、今まで以上にPRされたい。 ○就職支援に関しては、学生アンケートでの評価も高く大いに評価できる。 ○より多くの企業見学会、企業説明ができるよう工夫を望む。 ○例年、積極的に且つ計画的に十分な取組を行い、実績も確実に出ている。 ○南信工科短大振興会会員との連携が出来ており、会員入会促進にも繋がっている。 ○就職率は申し分なく学生は大変喜んでいる。 ○就職希望者27名全員が内定したことは素晴らしい。	○「日本語表現」の授業において、履歴書の事前添削を行い、就職活動の充実を図る。 ○昨年度に引き続きインターンシップ説明会を外部施設にて実施する。
		4年制大学への編入学制度の確立	・ 編入学試験に係る募集制度等の整備	校長	副校長	教職員	○単位互換制度（もしくは科目等履修生における受講料等の非徴収）の整備。 ○本校の人文科学分野一般教育科目及び専門基礎科目の充実。 ○編入学合格者のフォローを、編入先大学の教員と協力して実施。	○人文科学「日本語表現」を第4期に、専門基礎科目「線形代数学」、「力学」を第2期に開講。 ○信州大学オンライン講座を、前期1名及び後期2名が受講。 ○本年度の編入学の実績は、信州大学工学部が受験者1名中、合格者なし。諏訪東京理科大学工学部が受験者1名中、合格者1名。 ○合格者に課された課題について、適切に進捗確認を実施。	○編入学の学科試験の難度が高く、本校教育の延長線上では到達できないレベルにある。特別な強化が必要になれば、教員側の負担が増える可能性が高いため、非常勤講師等による「選択科目」の充実が必要。 ○職能短大の標準カリキュラムには教養科目が少ないため、4年制大学への3学年に編入できたとしても、卒業までには実質的に3年間を要することが予想されるため、非常勤講師等による「選択科目」の充実が必要。	自己評価：b	b	a	a	b	s	a	○大学への編入学の道は在学生のキャリアパスの拡大にとっても重要で、学校の様々な取り組みに対して高く評価する。大学への編入学の道は高校生にとっても魅力的。編入の実績が増えれば、これを高校生に大いにアピールするチャンスになる。 ○志願する大学によって選校試験のやり方は異なるが、県内の信州大学工学部や諏訪東京理科大学に特化した入試対策を実施されたい。特に、専門面は短時間で基礎学力を計ろうとするため、受験生によっては緊張のあまり、普段の力を発揮できない可能性がある（就職面接と同様）。慣れが必要なので、複数回の模擬専門面接も有効である。 ○編入学希望者への支援は個別の関わりが重要になる。昨年度は編入も多様化しているため少しずつ具体的な支援体制を整備することが求められる。 ○編入者数の増は、学校の評価向上につながる。難しい面は多々あると推察するが、期待したい。 ○編入学の学科試験レベルが高く、「選択科目」の充実を望む。 ○まずは、諏訪東京理科大学への合格者が出たことが大変喜ばしく、現時点では取り組み自体を大いに評価したい。 ○合格者の実績を上げるとには時間も必要。様々な取り組みの発展途上を踏まえ、評価外とした。 ○学生の様々な進路希望に対応する意味でも、今後も編入等のハードルを下げる取組を期待したい。	○教養科目の更なる充実を検討する。 ○編入学希望者については、引き続き信州大学オンライン講座の受講を勧めると共に、受験対策として個別指導を実施する。 ○選択科目3科目は編入学希望者のみならず全員が受講可能とし、対面授業や通学添削、またはそのハイブリッド授業として開講する。 ○編入学合格者のフォローを編入先大学の教員と協力して実施する。	
		研究の推進	・ 研究取組数 ・ 研究活動の内容 ・ 共同研究実施件数	校長	副校長	教員	○学会発表や学術専門誌への投稿数の増加。（原著論文発表数：年間3報以上） ○地域企業や教育機関等との共同研究の推進。（6件以上） ○論文作成と投稿の支援。（論文出版費及び学会参加費の補助）	○本年度は国内専門誌1、国内学会日誌発表2、電気通信大学と異形工具の制御用ソフト開発に関する共同研究の成果についてプレス会見を開催し、複数の新聞に記事が掲載。 ○本年度の地域企業や教育機関等との共同研究8件。 （小林教授1、荒川教授1、岡本講師1、松原教授3（倉澤准教授1含む）、柳沢准教授1、南澤講師1）	○論文発表や地域企業等との共同研究を展開する教員がいる一方で、教育に軸足を置いている教員もいる。教育重視の教員も保有技術のレベルは高いため、分野がマッチすれば共同研究への直結も見込まれる。 ○研究機関としてのひとつの基準である学術専門誌への原著論文の年間発表数3をクリアするため、論文作成支援を充実する必要がある。	自己評価：a	a	a	b	a	a	a	○電気通信大学との共同研究、地域企業や教育機関等との共同研究8件は高く評価できる。引き続き、推進して欲しい。 ○学会発表や学術論文は日頃の研究活動がベースになるため、自主研究、共同研究の維持・拡大を願っていた。 ○学会発表のための旅費や論文投稿料などに経費がかかるが、特に国際会議発表の参加費・旅費や海外雑誌投稿は高額であり、学校（あるいは振興会）として何らかの支援策はあるか。 ○令和7年度の課題に沿って、研究に関しては、多様な中でも精力的に取り組まれていると高く評価する。 ○地域企業との連携による研究は、地域在住の学生たちに対する大きなアピールになるのではないかと。 ○専門知識を高め研究の推進を望む。 ○取り組みの内容、件数など他同レベル校に対し優れていると思う。 ○研究を積極的に周知すると共に、地域産業と直結した研究が増えることを期待したい。 ○研究時間の確保が難しいと思うが、地元企業や地域の課題解決に直結する研究を積極的に進めていただきたい。	○教員それぞれが保有する技術や、地域企業に展開できるようにするため、HPに教員紹介ページに加えて「紀要」のアーカイブページを開設する。 ○原著論文の年間発表数3をクリアするため、論文作成支援策（研究費・論文添削費・共同研究紹介等）を充実する。 ○卒業研究の一環として、地域企業と「水位センサ」の開発及び「画像検査システム」についての共同開発を継続する。（再掲） ○卒業研究の一環として、信州大学農学部と培養装置の開発についての共同研究を継続する。（再掲） ○卒業研究の一環として、看護大学と重症心身障がいのある子ども向け音楽支援システムの開発についての共同開発を継続する。（再掲） ○日本かみかみ学会と咀嚼機能向上に関する共同研究（「かみかみ大使カミン」）の共同開発）について、実証実験で明らかになった課題を解決するために改良を進める。	
研 究	SDGs達成に向けた取組	・ 達成に向けた取組及び目標設定	校長	副校長	教職員	○SDGs関連授業（小水力発電等の自然エネルギー関連ほか）の実施。（3回） ○研究テーマの設定と実施。（1テーマ以上）	○栗田氏の再生可能エネルギーに関する授業を3回実施。 ○共同研究として、地域企業が開発したCO2排出量可視化システムの実証実験を実施。	○小型電力計を校内のエアコンに設置し、消費電力やCO2排出量を可視化した結果、実際の使用状況に基づくデータが得られ、効果的な節電方法を検討できることが確認された。	自己評価：a	a	A	s	A	b	A	a	A	○SDGsに関する教育が授業に具体的に含まれているが、再生可能エネルギーや省エネルギーに関わる技術や政策は多様であり、可能なならば（過大な負担のない範囲で）、体系的な内容で確立した授業科目を開講されたいかがが。 ○CO2排出量可視化システムの実証実験を地域企業と連携されている取り組みは高く評価できる。 ○電力計の校内設置による消費電力の可視化の次の段階として、今後は具体的な節電スキームの検討を。そのスキームに学生を参画させることでSDGsに対する教育効果も期待できる。 ○令和7年度の課題に沿って、SDGs達成に向けての研究に取り組まれていることも評価できる。今後も具体的な取り組みを計画していく余地があると考えられる。 ○SDGs達成に向け具体的な取り組みを望む。 ○計画に対するの実績としては計画を遂行出来たと思うが、目標がやや不明確と言うか物足りないためaの評価がしにくい。	○SDGs関連授業を継続実施する。（3回以上） ○校内の空調設備に、CO2排出量可視化システムを設置し、電力量を可視化しながら実証実験を継続して進める。
								自己評価：b	b	b	b	a	a	b	b				

